



患者さん一人ひとりに全力で向き合い続けている。その歩みは医療の現場にとどまらない。ファイナシヤルプランナー一級を取得したのもその取り組みの一つだ。

医師や大学勤務医が抱えるお金の悩みは、日本の医療の質にも関わる重要な課題である。そうした不安を解消することで、医師が研究や治療に専念できる環境を整え、ひいては医学の発展にもつながると考えている。庄野さんが、生まれ育った地とは異なる茨城県で開業を決意したのは、医療過疎の現実を目の当たりにしたことがきっかけだった。当時、小児科医が極めて少なかった神栖市を含む医療圏では、鹿嶋市・神栖市・潮来市の3市を合わせても数名しか小児科医がおらず、地域の人々は子どもの治療や健康管理に大きな不安を抱えていた。

「私が大学から神栖市に派遣された時、小児科医の不足は非常に深刻でした。診療数も多く、夜間救急も忙しい状態が続き、現場は常に逼迫していました。このままでは若い先生たちが疲弊してしまうのではないかと感じました。そこで、地域で一次診療を担うクリニックを開業すれば、総合病院への患者さん集中を防ぐことができ、医師の負担軽減にもつながるのではないかと考えま



院長  
庄野哲夫 さん  
順天堂大学医学部を卒業後、順天堂大学小児科学教室に所属し、約20年間小児の診療や研究に携わる。小児科専門医。内分泌代謝科専門医(小児科)。日本小児科医会認定地域総合小児医療認定医。

## 医療過疎の地域に必要な医療を 子どもたちの成長を支える小児科専門医

**不断前進の信念を胸に  
子どもと家族に寄り添う**

風邪や腹痛といった急性期疾患から、ホルモン異常による身体の悩み、アレルギーといったお子さんの日々の身体の悩みに寄り添う『医療法人神榮会しょうのこどもクリニック』。子どものお医者さんという立場から、子どもたちの健やかな成長や発達に寄り添っている頼れる地域のかかりつけ医だ。理事長・院長庄野哲夫さんは、幼少期に先天性の疾患で入院・手術を経験したことをきっかけに、「医師になりたい」「子どもに携わる医師になりたい」と医師を志した。順天堂大学医学部を卒業後、順天堂大学小児科学教室に所属し、約20年間にわたり各地域の大学病院や附属病院、関連病院の小児科で診療や研究に携わってきた。大学病院の医局や地域の中核病院において院長・部長を歴任し、小児科専門医、小児内分泌代謝科専門医、地域総合小児医療認定医として、長年にわたり小児医療の最前線を支えてきた実績を持つ。そうした歩みのなかで庄野さんが大切にしてきたのが、「不断前進」という言葉だ。これは順天堂大学の理念の一つでもあり、「歩みを止めない」という意味を持つ。医師として常に新しい知識や技術を取り入れながら、目の前の

医療法人 神榮会 **しょうのこどもクリニック**

☎ 0479-21-5377  
📍 茨城県 神栖市 須田2340-186  
<https://www.shono-kids.com/>





した。より多くの患者様に適切な医療を届けるためにも必要な役割だと思い、2022年に当院を開業しました」

同院では、小児急性期外来や小児内分泌科、小児アレルギー科、小児皮膚科をはじめ、発達相談外来や定期健診、予防接種まで、お子さんの病気や健康維持に関する幅広い悩みに対応している。近年は、頭のかたち外来も開設した。数あるお子さんの病気のなかでも、ホルモン異常やアレルギー、アトピー性皮膚炎といった専門知識をもつて管理・治療すべき疾患には、専門外来を設置しており、その分野での経験豊富な医師が対応している。症状だけでなく、生活背景や家庭環境にも耳を傾け、それぞれの状況を踏まえ、うえで適切な治療を提案している点も特長だ。

「小児科医や小児科専門医が少ない地域では、お子さんの体調が悪いときに開いている医療機関に受診しがちです。しかし、大人と子どもでは症状の現れ方や重症度が異なるため、子ども特有の病気や身体の構造、発達段階や精神面を理解している小児科医に相談することが重要だと考えています」

また、20年以上にわたりホルモン異常について研究してきた専門家でもある。日本内分泌学会



認定の内分泌代謝科専門医として、低身長や思春期の問題、おねしょ、肥満など、ホルモンが関わるさまざまな悩みに対応している。体内で複雑に働くホルモンは、多すぎても少なすぎても不調を引き起こす可能性があり、なかには注射治療が必要となるケースもある。こうした専門性の高い医療を提供する一方で、地域全体の医療体制を支えていくことも目指す。地域の子どもたちの多くがクリニックで適切な一次診療を受け、必要に応じて重篤な症例は高次医療機関へとスムーズに連携していける仕組みを整えている。

患者さんが良くなってくることが一番嬉しい。その想いは診療の現場にも現れ、常に患者さんや親御さんとの信頼関係を大切にしている。お子さんが病院を怖がらないよう、白衣ではなくパーカーやスクラブで診察を行い、声のトーンや距離の取り方、タイミング、姿勢、表情にまで細やかに配慮する。親御さんに対しても専門用語をできるだけ使わず、わかりやすく丁寧な説明を心がけている。小児科医が少ない茨城県神栖市に開業し、わずか数年で地域に欠かせない存在となった同院。地域医療の要として、地域の子どもたちとその家族が安心して暮らせるよう、日々の診療を通して支え続けていく。

(ライター／彩木)